

【81】

秘川乙第巻〇五号

領収書

一金三円也

右ハ明治廿三年十月中高等警察機密費

右正ニ領収候也

明治廿三年十一月十日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【82】

秘川乙第巻〇六号

定期通報

一非職添田収税長ノ懇親会

中山郡長カ会主トナリ昨十一日神奈川県名古屋方ニ於テ橘樹郡内ノ重立タル者カ添田収税長ヲ招待シ懇親会ヲ開タルヨシニテ其会費ハ一名壹円廿銭ツ、亦当署部内ヨリ（□）拾三四名モ参会シタ

ルヨシ

一立憲自由黨員増加セントス

大師河原村ニ於テ石渡当(「藤」カ)太郎石渡七左衛門(目下ノ村長)石井新太郎和泉源右衛門等ノ周施尽力ニヨリ四十名計リ今回該自由党ニ加名セントナシ専ラ其計畫中ノヨシ蓋シ山田泰造ト現今ノ村長石渡七左衛門トハ親戚ノ間柄ナルヲ以テ山田ヨリ七左衛門ヲ説キ七左衛門ヨリモ石渡当太郎石井新太郎等ヲ促シ□(「傍」カ)ラ山田泰造モ村内重立タル者ヲ誘導シタル為メナリト云フ

一大師河原村ノ紛議結了ス

内田佐五右衛門石川長造(「蔵」)府(「布」カ)川久次郎石井新太郎石渡太助ノ五名ヨリ金貳百五十円示談金トシテ差出シ之ヲ相手方ナル石渡当太郎和泉源右衛門等ノ反対党ガ受取り是迄ノ紛議ヲ消散セシメタル(「ヨシ依テ」)ニ付該示談金ヲ以テ一大親睦会ヲ開ント(「ナシ居ルヨシ」)ノ協議中ノヨシ

一町田村ニ於テ非職添田収税長ノ為メ祝典ヲ举行セントス

該町田村ノ重立タル者ハ永年ノ間奉職セラレタル慰勞トシテ添田ノ為メ盛大ナル祭典ノ如キモノヲ举行セント専ラ計画ナシ居ルト云フ

右報告候也

明治廿三年十一月十二日

川崎警察分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【83】
秘川乙第巻〇七号

臨時通報

一大師河原村海苔場紛議ノ件

本件ニ付テハ目下大師河原村へ海苔場担当者石川長造(「蔵」)等ガ奔走ナシ居ルヨシニ付其原因ヲ内偵候所紛議ノ原因ハ左ノ如シ
荏原郡羽田村海苔営業者石井今助石井長五郎野口清四郎三名ノ者(「等ニ」)於テ羽田村海面ヨリ大師河原村海面へ侵入シ鹿菜ヲ建テ

(「タ」ル事ニ付大師河原村海苔担当者タル武藤磯五郎倉形治郎左衛門櫻井佐七和泉丑五郎ノ四名へ対シ協議ヲ遂ケタルニ四名ノ者ハ之承諾シタルヲ以テ終ニ願書ヲ認メ該四名ノ奥印ヲ経(「□」)鹿菜建増ノ為メ借地ヲ東京府庁へ出願本年九月下旬頃許可ヲ得鹿菜ヲ建タルモ該建テタル場所ハ大師河原村海苔担当者武藤磯五郎等ノ承諾シタル以外ノ地へ侵入ナシアルヲ大師河原村漁民カ発見シ苦情ヲ唱へ出シタルヨリ武藤磯五郎ハ大ニ驚キ遂ニ郡惣代人タル石川長造等ガ大師河原村漁民惣代トナリ本県庁へ出頭為シ百方奔走ナシ居レリ但シ承諾以外ノ地へ侵入シ鹿菜ヲ建テタル惣坪数ハ不分明ニ有之候(「而シテ目下ハ得共モ其大略ハ別紙函面ノ如」)
右ノ如キ概況ニシテ唯々惣代人カ奔走ナシ居ルノミニ(「シ」)テ村内ハ静謐ニ有之候

右報告候也

明治廿三年十一月廿一日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【84】
秘川乙第巻〇九号

定期通報

一国会開設祝賀ノ景況

本月廿五日ハ古今未曾有ノ帝國議會開設ノ当日ニ付之ヲ祝スル為メ当川崎町ニ於テハ軒提燈ヲ釣シ踊屋台ヲ設ケ煙花ヲ打揚ケ亦小學校生徒徒ヲシテ町内ヲ進行セシメ祝意ヲ表スル計画ナリト云フ亦各村モ当日ハ業ヲ休ミ夫々祝杯ヲ挙ケルヨシ

一大師河原村ニ立憲自由黨員増加セントス

自由黨員ノ増加セントスル件ハ既ニ報告ナシ置候所愈々左記人名ノ者ハ加入ニ決セリト云フ

石渡 藤太郎
石井 新太郎
和泉 源右衛門

倉形治郎左衛門

内田佐五右衛門

松原 吉藏

須山 仁太郎

寺田 寅五郎

石川 伊三郎

齊藤 周藏

池上 宗太郎

宮沢 惣次郎

宮沢 金太郎

秋元与五右衛門

全 太四郎

全 富藏

須山 五平次

布川 久次郎

佐々木 若太郎

武藤 善太郎

全 万吉

和泉 茂右衛門

右廿二名ノ(者ハ既ニ加入ノ事ニ決定セルモ其他)外ニ加入セン
トスル者モアルヨシ(□)ナレトモ不在等ニシテ判然セサルヨシ
斯ノ如ク多数ノ加入スルニ至リタル原因ハ川崎町酒類営業森松五
郎(「松太郎」)ノ煽動ニ出タル趣ニシテ全人ハ自由黨員ト交際
ヲ結ヒ専ラ該党ノ為メニ奔走シ該党運動費トシテ当郡内ニ於テ千
円モ調達センカ為メ先ツ黨員ヲ募集シ黨員トナリタル以上ハ幾分
ノ義損金ヲナサシメンカ為メ(ナリト云フ)手始メニ大師河原村
ニ於テ前ノ者ヲシテ加入スルニ至ラシメタリト云フ

一川崎町ノ懇親会

来ル廿五日午后三時頃ヨリ川崎町旅店朝田屋方ニ於テ町内ノ重立
タル者カ親睦会ヲ開クヨシ

右報告候也

明治廿三年十一月廿二日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【85】

秘川乙第壹卷〇号

定期通報

一存娼相談会ノ件

本月一日午后七時頃ヨリ当川崎町ノ貸坐敷営業者ハ勿論其他重立
タル者卅名計リ娼妓梅毒検査所ヘ集会シ協議ヲ遂ケ解散シタルハ
翌二日午前二時頃ニシテ其協議ノ景況ハ左ノ如シ
当川崎町ノ繁栄ヲ為ス幾分ノ原因ハ貸坐敷ニアリ貸坐敷ニ於テ遊
客ノ消費スル合計金高ハ毎夜平均二百円(位ニシテ)一ヶ月六
千円ナリ此六千円ノ金ハ当川崎町全体ヘ落チル金円ニ付若シ此ノ
貸坐敷ナキトキハ此ノ六千円ノ金円ヲ得ル能ハス皆品川地方ヘ飛
散セサルヲ得ス故ニ貸坐敷アルトキ全営業者ハ勿論其他ノ営業人ト
雖モ間接ニ利益ヲ得ルヤ勿論ナリ然ルニ先般県会ニ於テ娼娼ノ決議
ヲナシ娼娼ノ議ヲ知事ヘ建白セントスルヨシナレハ此ノ決議ニ対シ
悪迄モ反对ニ立チ存娼セサルヘカラサル理由ヲ知事ヘ建議セサルヲ
得ス而シテ此ノ建議ハ貸坐敷営業者全体ノミカ為スト其他ノ人民モ
之ニ合体シ為スノ如何ニヨリ信用ノ厚薄アルヲ以テ貸坐敷営業者
ハ勿論其他ノ人民モ皆連署セサルヘカラスト唱フル者アリ
或ハ川崎町全体ノ者カ為スヨリハ神奈川町或ハ藤沢町等ヘ委員ヲ派
出シ本県下ノ営業者ハ勿論其利害ノ関係アル人民ノ連印ヲ得存娼ノ
利益ヲ枚挙シテ建白スヘシト主張スル者アリ或ハ存娼ノ建議ヲ為ス
ニ付テハ先ツ種々ノ入費ヲ要スルヲ以テ不取敢運動費トシテ廿円
ヲ募集セサルヘカラスト云フ者アリ斯ノ如ク種々ナル談話ニ移リ
終ニ来ル三日午后七時頃再度集会スル事ニ決シ解散セリ蓋シ本会
ノ發起人ハ左ノ如シ

小間物商

平川平五郎

呉服商

島田 武助

酒類營業商

青木勝次郎

煙草營業商

鳥養文次郎

荒物商

森 五郎作

一 三郡懇親会ノ件

橘樹都筑久良岐ノ三郡懇親会ヲ来ル明治廿四年一月上旬頃開設セ
ンカ為メノ相談会ヲ大師河原村料理店梅園ニ於テ本月一日午後五
時頃催シ(タルヨシニテ)会(スルニ)シタル者廿名計リニテ大
抵ハ山田泰造ヘ投票ナシタル三郡ノ有志者ニシテ田中亀之助ハ席
上簡短ナル演説ヲ為シ亦大師河原村ニ於テハ此ノ懇親会ノ世話人
トシテ石渡藤太郎和泉源右衛門和泉源三郎石井新太郎寺尾喜助倉
形仁太郎大山庄兵衛ノ七名(タリト云フ)ヲ定メ(テ)且ツ田中
亀之助ハ翌二日懇親会ノ定日場所等協議ノ為メ神奈川町へ出張セ
リト云フ

一 政談集會ノ件

来ル四日五日六日ノ三日間午後六時ヨリ当川崎町字堀ノ内八百
卅六番地小川松五郎持家ニ於テ左記人名ノ者政談演説会ヲナ
ス

横浜市宮崎町壱番地

士族著述業

中西三一郎

卅五歳

東京市神田区山本町廿八番地

雑業平民

松本健(三)三郎

三十歳

全 浅草区寿町廿一番地

士族漁業

和田 常蔵

廿七歳

富山県高岡市旅籠町五十九番

地士族著述業

岡田重三郎

廿七歳

東京市京橋区北槇町四番地

大竹嘉助方全居平民農

畔(□)柳久三郎

三十五歳

右報告候也

明治廿三年十二月二日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【86】

秘川乙第壱壱号

政談演説会報告

本月四日五日六日ノ三日間午後六時ヨリ十一時迄川崎町堀ノ内八百
卅六番地小川松五郎持家ニ於テ左記ノ者政談演説会ヲナス

横浜市宮崎町壱番地

著述業士族

中西三一郎

卅五歳

東京市神田区山本町廿八番地

雑業平民

松本健二郎

全 卅年
浅草区寿町廿八番地
士族
和田 常蔵

廿七歳

富山県高岡市旅籠町五十九番地士族著述業

会主兼弁士 岡田重三郎
廿七歳

東京市京橋区北槇町四番地
大竹嘉助方全居平民農

畔柳久三郎
卅五歳

弁士ハ右ノ五名ニシテ去ル四日ハ聴衆廿名計リ頗ル寂寥タルモノニ有之亦昨五日ハ聴衆五十五名ニシテ両日共午后十時三十分頃無事閉会候条其詳細ハ追テ筆記相添上申候也

但シ五日後十時頃会場ニ於テ高知県土佐高知市永石寺町六十三番地士族五藤正隣ガ(傍聴ナシ居リタルニ会場ニ於テ)中西三一郎ノ演説ヲ暴評ナシタリトテ(之ヲ怒リ)会主兼弁士岡田重三郎ハ之ヲ怒リ五藤正隣ヲ殴打ナシタルヲ以テ取調ノ末本日午前八時岡田重三郎刑法第四百廿五条九項違犯トシテ科料金壹円五十銭ノ言渡ヲナシタルモ完納スル能ハサル旨申立ルヲ以テ即時勾留ニ換刑致候(□)蓋シ被害者ハ立憲自由党ノ壮士トカニテ平素中西三一郎其他ノ者トハ交際ヲ絶チ居ル者ニシテ一面識ノアル間柄ニ有之候

明治廿三年十二月六日

川崎分署長

警部長 高橋仲次殿

警部 梶田定吉

【87】
秘川乙第壹卷二号

臨時通報

一存娼之義ニ付当川崎町人民ノ重立タル者ハ本月一日頃ヨリ奔走ナシ居ル旨既ニ報告致置候所別紙謄本ノ如キ上申書ヲ知事ヘ二三日内ニ呈出センカ為メ町内ヲ持廻リ(者)有志者ノ連印ヲ取り居ルヨシ蓋シ此ノ上申書ハ有志者カ出京シ大江卓ニ依頼シ起草ナシ貴ヒタルヨシニテ此上申書ヲ平川平五郎島田武助高橋与一郎ノ三名ガ県庁ヘ持参シ知事ヘ面会ノ上呈出スル筈ニ内偵候条此段報告候也

明治廿三年十二月七日

川崎分署長

警部長 高橋仲次殿

警部 梶田定吉

【88】
秘川乙第壹卷三号

臨時通報

一政談演説会ノ件

中西三一郎外四名ノ三日間政談演説会ノ件ハ既報告ナシ置候所昨六日ハ弁士二名即チ畔柳久三郎ト和田常蔵ニシテ外三名即チ岡田重三郎ハ勾留ノ刑執行中亦松本健三郎ハ出京ニ付出席セス亦中西三一郎ハ官吏侮辱事件ニ付全日午前十一時ヨリ当署ヘ留置候次第ニ有之而シテ会場ハ極テ静謐ニシテ全日午後十時頃無事閉解聴衆八百卅名ニ有之候

一弁士中西三一郎ト和田常蔵ノ兩名ハ官吏侮辱犯トシテ当署留置セシ件

明治廿三年十二月六日午前十時卅分頃中西三一郎ト和田常蔵ノ兩名ハ五藤正隣ノ行先ナル当川崎町旅店会津屋事田中亀之助方ヘ尋ネ行キ五藤ヘ対シ何故些少ナル事ヲ根ニ持チ岡田重三郎ヘ対シ川崎分署ヘ告訴ナシタルヤ汝ノ為メ岡田ハ二日間ノ勾留ニ処セラレタリ曾テ汝ハ我等ヨリシテ困難ヲ救済セラレタルノ恩義ヲ抛却シ

今ハ却テ我カ一行ノ一人ナル岡田ヲシテ勾留ノ刑ニ処セシメタルハ汝ノ行為ニ出ル所ナリ我々ハ岡田ノ為メ汝ノ如キ人面獸心ヲ罰スル為ニ来リタリトテ中西ト和田兩名ニテ五藤ヲ毆打セルヲ以テ田中龜之助ハ之ヲ中裁シタルモ中々聞入レス其中五藤ハ兩名ノ手ヲ振放シ大師河原ノ方ヘ洗足ノ儘逃出シタルニ統テ兩名ハ跡追駈再ヒ捕ヘ来リ田中龜之助方ニ於テ乱打ナシ居ル旨平川平五郎ヨリ急報ナシ来リタルニ付巡查部長石井亥吉巡查士佐熊藏全角田鍊治及雇本吉貞作ノ四名ヲ出張セシメ夫々被告兩名ヲ引致スルニ際シ被告中西三一郎ハ巡查士佐熊藏ヘ対シ何故勾引スルヤ令状アルニアラサレハ身体ノ勾束ヲ受クルコトナシ云々ト唱へ且ツ大声疾呼シテ川崎町人民ハ見ヨ警察官斯ノ如キハタル」压制ヲト連呼シテ止マス斯ノ如キ巡查ヘ対シ侮辱ナシテ止マサルヲ以テ遂ニ官吏侮辱トシテ勾留取調ニ着手セリ亦和田常藏カ官吏侮辱ノ事実ハ別紙犯罪申告書謄本ノ如キ次第ニ候条ナリ

右ノ如キ事状ニ付取調ノ上兩名トモ官吏侮辱犯トシテ検事ヘ交付スル見込ナリ

右報告候也
明治廿三年十二月七日
川崎分署長
警部 梶田定吉

〔横浜〕
警部長 高橋仲次殿

【89】
秘川乙第巻老四号

- 横浜市宮崎町一番地
- 寄留福岡県土族著述業
- 中西三一郎
- 卅三歳
- 東京市浅草区寿町廿八番地
- 士族漁業
- 和田 常藏
- 卅七歳

右兩名ハ官吏侮辱事件ニ付留置取調中ノ儀報告致置候所証拠充分ト認メ本日横浜地方才判所検事ヘ送付候条此段上申候也
明治廿三年十二月八日
川崎分署長
警部 梶田定吉

【90】
秘川乙第巻老五号
臨時通報

一政談演説会ノ件

- 東京市北楨町四番地
- 大竹嘉助方全居平民農
- 会主兼弁士 畔柳久三郎
- 卅五歳
- 全 浅草寿町廿八番地
- 平民雜業
- 弁士 伊藤 立志
- 卅二年
- 全 町全番地
- 伊藤米吉方全居平民農
- 弁士 櫻谷由太郎
- 廿五歳
- 全 全町 全番地
- 伊藤米吉方全居平民農
- 弁士 富田 良藏
- 廿三歳
- 全 神田区錦町四番地
- 平民雜業
- 弁士 中川清三郎
- 卅一歳

全 全区全町廿八番地

平民商

弁士

杉浦民三郎

卅年

富山県高岡市旅籠町五十四番地

士族雑業

弁士

岡田重三郎

廿七歳

右七名ニ於テ明九日午后七時ヨリ川崎町堀ノ内小川松五郎持家ニ

於テ政談演説会開設スル旨会主ヨリ届出タリ

右報告候也

明治廿三年十二月八日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

一 學術演説会開会ノ件

本日午后六時ヨリ前記七名ノ者ニ於テ該小川松五郎持家ニ於テ

學術演説会開会ノ件会主岡田重三郎ヨリ届出タリ

【91】

秘川乙第老老七号

請求書

一金参円也

右ハ明治廿三年十一月中高等警察ニ関スル機密実費支払高

右御渡相成度此段請求候也

明治廿三年十二月九日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

支出明細書

一金参円也

内訳

一金参円也

右ハ明治廿三年十一月中高等警察探偵事件ニ巡查部長石井亥

吉及巡查角田鍊治ノ兩名ヲ使役シタルニ付其際消費シタル実

費ニ付兩名ハ五十銭ツ、下付ス

一金貳円也

右ハ本官ニ於テ高等警察事件ニ付消費ス

右之通支出相違無之候也

明治廿三年十二月九日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【92】

秘川乙第老老八号

領収証

一金参円也

右ハ明治廿三年十一月中高等警察機密費

右正ニ領収候也

明治廿三年十二月九日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【93】

秘川乙第老老〔九〕八号

臨時通報

一 學術演説会ノ景況

昨八日ヲ以テ岡田重三郎外六名ニ於テ川崎町堀ノ内小川松五郎持

家ニ於テ〔政談演説〕全日午后六時ヨリ學術演説会開設ノ儀報告

致置候ニ付必要ト認メ筆記巡查一名ヲ率ヒ全日午后七時頃監臨

候所聴衆廿四名計ニシテ閉会シタル亦此際聴衆ハ五十三四名ニ

至タレリ且ツ全九時三十分頃亦弁士ハ岡田重三郎畔柳久三郎ノ二

名ニテ外五名ハ來着セサルヲ以テ出席セス演説モ至極靜謐ニシ

テ集會政社法等ニ抵触セシコトナク其演題ハ左ノ如シ

一 進化主義

岡田重三郎

一 廢娼ノ利害如何

畔柳久三郎

右ノ如キ景況ニシテ二名ノ弁士ハ中西三一郎(畔柳久)外一名カ官吏侮辱犯トシテ横浜地方才判所へ送付サレタル(ハ)ヲ以テヨリ頗ル恐怖(ナシ)居ルモノノ如シ)ト謹慎ヲ為シ居ルモノノ如シ

右報告候也

明治廿三年十二月九日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【94】 秘川乙第壹卷九号

臨時通報

一(□)政談演説会景況ノ件

本日午後七時ヨリ川崎町堀ノ内小川松五郎持家ニ於テ畔柳久三郎外六名政談演説会開設ノ儀報告致置候(所)ニ付該景況左ニ弁士ハ畔柳久三郎岡田重三郎ノ二名ニシテ外五名ハ事故有之出席セザル趣ニテ畔柳(久)ト岡田ハ各二題ツ、ヲ演シ午後九時卅分無事閉解(会)聴衆九十二名計ニシテ頗ル静謐且集會政社法等ニ抵触セシコト無之候

右不取敢報告候也

明治廿三年十二月九日

川崎分署長

警部 梶田定吉

警部長 高橋仲次殿

【95】 秘川乙第壹卷二〇号

臨時通報

一大師河原村物揚場使用ノ件
大師河原村々會ニ於テ先般一村共有地ナ(シオ)ル物揚場壹反歩使用料金二円ヲ使用者ヨリ徴収スル決議ニ対シ(□□)利害ノ關係アル一部分ノ村民カ苦情ヲ鳴ラシ議會ヲ攻撃シ居ル趣報

告致置候所右ニ関スル今回別紙謄本ノ如キ上願書ヲ郡衙へ差出スカ為メ目下全意者ノ連印ヲ取り居ルヨシ
右報告候也
明治廿三年十二月十日
川崎分署長

警部長 高橋仲次殿

上 願

警部 梶田定吉

橋樹郡大師河原村下人民一同奉上願候明治廿三年十月廿四日當村々會ニ於テ從來使用スル物揚場云々ノ村會之アリ該決了ニ曰ク村會議長ハ右物揚場ヲ彼是議會ニ附村方へ如何ナル利益ヲ得ルタメカ不知トモ海岸附キ凶子々々ノ義ハ元旧村維持村方ニシテ新田開墾以來潮入堀アリテ其左右ハ湿地ナルヨリ人民拳テ海面ヨリ貝藻ヲ捕リ揚ケ其売ヲ以テ埋立漸ク通常満潮不上様□甚シ夫カタメ元數度検地ノ際ハサラニ地ノ名称ヲ附テ是迄採藻ノ物揚場ニ仕來り候処明治十九年改正ノ當時村方ハ合併致シ其際ハ一村共有地ニ相成居リ目今ノ景況ニ有之然ルニ今回改メテ物揚場タルモノヲ壹反歩金貳円ニ小作料ヲ払ウトカ到底此小作金上納ニハ事叶ヒ難ク尤モ該議員衆ノ説玉川通物揚場ハ私有ニ之アリ其近隣ノ人民ハ若干ノ任用料ヲ差出スカタメ不公平ナル事ヲ葉(「喋」)々主張スル者有之哉ニ略ホ承知致シ候得へ共前件ノ条々ニテ玉川通ハ從前物揚アルモ洪水壹度スレハ俄然其場所モ亡地トナルタメ今日ニ致リ物揚場モ無之モノト考ヘラル依テ之ヲ公平ニスルナレハ其私有物揚場ハ税金ナルヨリ海岸附使用凶子々子ニテ差出シタレバ是以テ公平ノ議ト被存候処當村長ニ於テモ斯ク少數反別之村方ニシテ戸數千戸ニ不尠且人民ハ□□有餘ノ居住ニ有之反別戸數比較シテ如何セン生活ナスノ計画ハ果シテ□□得ル義ニ無之具藻其他ノ稼ヲ以テ漸ク今日ヲ送り居ルヲ深ク御酌料被□有候願意御採用有之度人民一同連署ヲ以テ此段奉願候也

【96】 秘川乙第壹卷貳号

臨時通報

一 商法研究会ノ件

商法ハ来ル明治廿四年一月一日ヨリ施行相成ルニ就テハ商人社会ニ大關係アルヲ以テ今日ニ於テ不取敢商人ノ義務トシテ備フヘキ商業帳簿等ノ何モノタルヤヲ研究シ置カサルトキハ不利益ヲ蒙ルヲ以テ研究会ヲ開カサルヘカラス云々ト唱ヘ(商人)川崎町商人ハ相談会ヲ一先開ント奔走ナシ居ル(者ハ)ヨシニテ其主唱者ハ川崎町酒類營業者青木勝次郎等ナリト云フ

一 大師河原村川岸物場使用ノ件
本件ニ就テハ是迄屢報告ナシ置候所物場場ヲ一反歩金貳円ノ使用料ヲ以テ借用スルハ困難ニ付村会ノ決議ヲ取消サ、ルヘカラストテ三百代言ヲナシ居ル田中豊吉ヘ依頼シ郡衙ヘ村会決議取消ヲ請願シ郡参事会ニ於テ承諾セサルトキハ県知事ヘ出願スル見込ナリト云フ

一 井職添田収税長ノ不平

全氏ハ町田村ニ於テハ恰モ旧地頭ノ如キ勢力アリテ何事モ氏ノ指揮命令ハ村民ニ於テ遵奉シ違背スル者ナキ程ノ景況ナルヨリ自然全氏ハ氣儘ナル振舞ヲナシ来リタルモ畢竟不平ヲ洩ス所ナキヨリ其結果村民ノ頭上ヘ落ツルモノナランカ或日全氏ノ飼養ナシ置カ猫ト隣家猫ト噛合全氏飼養ノ猫ハ敗ヲ取り逃ケ来リ遂ニ唐紙ヲ破リタルヨシ然ル(□)□全氏ハ之ヲ立腹シ他人ノ家ヲ顧ミス侵入シ唐紙(□)破リタルヲ以テ其儘ニ捨テ置キ難ク依テ征敗スルカ猫ヲ差出セト嚴談サレタル隣家ノ主人ハ百万謝シタルモ承知ナキヨリ中裁人ヲ依頼シ全氏ヘ謝シタルニ付漸ク之ヲ用捨シタリト云フ其他右等ニ類スル挙動アルヲ以テ村民ハ窃カニ全氏ノ跋扈ヲ指彈(ナ)シ(居ルト云フ之レ)且ツ不平ノ氣ヲ事ニ当リ洩スモノナリト風評セリ

一 海苔生産ノ景況

当今ノ所ニ於テハ海苔ハ七分位ノ収獲(ハ)アルナランカ充分ナル収獲ハナシト云フ亦本月十日初取ヲ始メタルニ其相場ハ尙(拾枚)五錢位ナリト云フ

一 川崎町ノ橋普請

川崎(町)停車場ヨリ川崎町往還へ出ル所ニ架シアル橋ハ本年多摩川洪水ノ為メ破壊シ目下仮橋ノ所先般来町会ニ於テ橋(ノ修)新設ノ件ヲ協議ナシタルモ容易ニ町会ノ決議通り町費ヲ毎戸ニ於テ出金セサルヲ以テ町長ハ止ヲ得ス一時金ヲ他ヨリ借入不取敢工事ニ着手シ今年内ニハ出来シ来(春ヨリ)一月一日ヨリ差支ナク通行スルコトヲ得様架設セサルトキハ東京地方ヨリ大師ヘ参詣ニ来ル者ニ見ラレ川崎町ノ恥辱ナリトテ新設費トシテ二百円計ヲ目下借入レント奔走ナシ居ルヨシ

一 住吉村ニ於テ法律研究会ヲ起サントス
全村長及助役ヲ始メ其他村内ノ重立タル者カ毎日曜日午後一時頃ヨリ全村寿福寺ヘ会合シ法律ノ研究ト腕力養生ノ為メ擊劍ヲナシ知識ノ發達ト身体ノ健全ヲ図ル為メ法律研究会ナル(□)モノヲ起(ス)ヲ以テ公務ノ余暇ニハ本官ニモ臨会ナシ呉候様申来リタリ尤モ目下計画中ナリ

右報告候也

明治廿三年十二月十二日 川崎分署長

警部 梶田定吉

部長宛

【97】
秘川乙第卷二二号

監臨報告

本月四日五日六日ノ三日間午後六時ヨリ十一時迄川崎町堀ノ内八百卅六番地小川松五郎持家ニ於テ岡田重三郎外四名ニ於テ政談演説会開設届出ニヨリ制規ニヨリ之ヲ領収シ(其景況ハ不取敢報告致置候ニ付)監臨セシ所其景況左

四日

北門一度破壊セハ蒼生如何
国会議場ノ景況ヲ云ハシ
現内閣ノ政策悉ク非ナリ
和田 常蔵
中西三一郎
岡田重三郎

我国政治社会ヲ評ス

泣テ皇天皇土ニ訴フ

松本健二郎
畔柳久三郎

四日ハ右五名ニシテ五題ヲ演シ聴衆廿名弁士ノ演壇ニ登リタルハ午
后七時頃ニシテ閉会ハ十時卅分廿名ノ聴衆ハ下等社会ノ者多ク川崎
町ニ於テ中以上ノ者ハ見受ケス大抵車夫鳶人足或ハ農夫体ノモノニ
シテ演説ニ感動スルコトナク欠伸ト中ハ大声ノ為メ睡眠ヲ妨害セラ
レタルカ如ク時々睡眠ヲ開クヲ見受ケタリ故ニ弁士ハ頗ル失望ノ体
ニシテ宿料支弁ノ途ニ窮シタルカ如キ景況ナリ尤モ五名ノ弁士ハ一
宿十銭位ノ木賃宿ヘ投宿為シ居レリ亦下足料トシテ一人ニ付二銭ツ
、ヲ徴収スルヲ以テ少シク傍聴人アレハ〔下〕宿料及旅費ヲ支弁ス
ルコトヲ得ハ容易ナリ

五日

国会議場ノ景況ヲ述ヘテ意見ヲ諸君ニ訴ヘル

中西三一郎

議員カ將タ偽員カ

和田 常蔵

責任ノ重キ帝国議會

岡田重三郎

五日ハ右三題ニシテ午后七時頃弁士登壇シ閉会ハ十時ニシテ聴衆五
十五名弁士ノ一名ナル松本ハ〔出京ニ付キ〕不在ニ付欠席シ当夜
ハ前夜ヨリ聴衆多ク而シテ各弁士ノ演スル所ハ前夜ト〔異〕大
同小異ニシテ唯タ政治社会ヲ誹謗スルニ過キス大抵ハ卑近ナル例
証ヲ挙げ暗ニ官吏ノ身上ヘ対シ攻撃〔譏謗シ〕ヲ加ヘ動スレハ警
察官吏ノ事ヲ引例シ以テ聴衆ノ愉快ト感動ヲ買ハントスルモノ、
如ク其弁士ノ所過激粗暴ニ流レ或ハ官吏侮辱ヲ以テ問ハサルヘラ
サルカ如キ感シヲ起スコト往々有之候得共モ其際注意ヲ促カシ或ハ
中止シ亦ハ解散スル等ノ処分ヲ為スハ却テ彼等ニ名譽ヲ与〔□□〕ル
カ如キ場合ニ至リタルカ為メ益ス彼等ノ演説ニ価値ヲ附スルト全一
ノ結果ヲ生シ且ツ彼等ノ演説ヲ中止シ法律ヲ以テ一々責問スルハ大
人ゲナキノ景況〔□□〕ト証拠不充分ノ感覺モ有之候

【98】

秘川乙第九七号

請求書

一金參円也

明治廿三年九月中高等警察ニ関スル機密実費支払高

右御渡相成度此段請求候也

明治廿三年十月十日

川崎分署長

警部長 高橋仲次殿

警部 梶田定吉